

事業団体名：漂着DECO(プレシャスプラスチック瀬戸内)

プラスチックごみのアップサイクルを学ぶ！ワークショップ

「浜辺に流れついたプラスチックごみを暮らしを彩る資源に変えちゃおう！

～海と日本PROJECT～」vol.7を開催しました！

2023年3月18日(土)【中島ゆうきの里】

漂着DECO(プレシャスプラスチック瀬戸内)は、3月18日(土)に海洋ごみや廃棄プラスチックへの理解を深めることを目的として、プラスチックごみをアップサイクルして新たな資源を作り上げる活動(プレシャスプラスチック)のワークショップ「浜辺に流れついたプラスチックごみを暮らしを彩る資源に変えちゃおう！～海と日本PROJECT～」vol.7を開催いたしました。



- ・開催概要 アップサイクルで新たな資源を作り上げる活動(プレシャスプラスチック)の紹介
ビーチクリーンとワークショップなど
- ・日程 2023年3月18日(土)12時00分～16時30分
- ・開催場所 中島ゆうきの里 松山市神浦3025
- ・参加人数 8名

プラスチックの勉強会后、ビーチクリーンをしながらワークショップで使う材料を拾う

はじめに、瀬戸内沿岸に漂着する牡蠣のプラスチックごみについての説明や、中島のみかんキャリーなどを資源として利用していることを説明。利用するプラスチックの種類や特性などについて、事前に参加者に資料を配布し解説を行いました。

勉強会の後は40分ほどかけて、資源として使用するために牡蠣のプラスチックパイプを拾いました。回収しながら、「なぜこれだけのプラスチックパイプが海に流出するのか?」「牡蠣の養殖には実際にどのようにプラスチックパイプが使われているのか?」「プラスチックパイプの代替品は考えられないのか?」など話し合い、参加者全員で海洋ごみについて考えることができました。回収した漂着物は、洗浄後に乾燥させました。



拾った漂着ごみを使ってタイルを作成

それぞれの参加者は、自分が拾った牡蠣のプラスチックパイプを自らシュレッダーにかけて粉碎。事前にパイプを色ごとに分別したので、粉状のプラスチック(ペレット)を、好きな色の配合でインジェクションマシン(射出成型機)に投入しました。タイルができるまでの間(約10分)に、ヒートプレス機(樹脂板を作成する機械)で同じペレットを使ったブローチやマグネットを作成。プラスチックのタイルは時間内に1人1枚作りあげることができました。自分たちで拾ったごみで、ブローチやアクセサリーなど使えるものができ楽しんでもらえました。



参加した人の声

- ・たくさんのごみ(プラスチック)がアクセサリーや、家などで使えるようになって楽しかったです。(10才女の子)
- ・わたしもこれをきっかけにごみ拾いをしたいです。(7才女の子)
- ・プラスチックを使って、じょうぶなものを作れるなんてスゴイと思いました。家でもしたいし、もう一度参加したいです。(9才女の子)
- ・海で拾ったごみが工夫次第で楽しい作品になってあっという間の楽しい時間でした。すべてのごみをなくすことは難しくても、他の何かに変えて楽しめると少しでも環境がよくなるのかなと思いました。(40代女性)

<団体概要>

- 団体名称 : 漂着DECO(プレシャスプラスチック瀬戸内)
- URL : <https://hyotyakubutu.thebase.in/>
- 活動内容 : プラスチックごみのアップサイクル活動